

2009年8月5日

各位

オリックス株式会社
(コード番号:8591)

2010年3月期 第1四半期連結決算(4~6月)
6セグメント中、5セグメントで黒字

2010年3月期第1四半期(2009年4月1日~2009年6月30日)の米国会計基準連結決算における当期純利益は76億円となり、2四半期連続して黒字を計上しました。これは通期見込み300億円に対しておよそ25%の進捗となります。事業部門別に見ると黒字のセグメントは5つに増加しており、業績は回復基調です。

第1四半期決算のポイント

	主要項目	進捗状況
1	四半期損益	・当期純利益(*1) 76億円(通期見通し対比 25%)
2	財務の安定性強化	・有利子負債(*2)の圧縮 1,995億円(通期圧縮予定 8,020億円対比 25%) ・DEレシオ(*2)の低下 09/3 4.5倍 09/6 4.3倍 増資後 4.0倍 (公募増資による資本増強 834億円 2009年7月21日払込)
3	資産圧縮	・総資産の圧縮 2,303億円(通期圧縮予定 6,197億円対比 37%)
4	クレジットコスト	・貸倒引当金繰入額 124億円(通期見通し 780億円対比 16%)
5	不動産のリスク管理強化	・不動産関連資産の圧縮 608億円(通期圧縮予定 3,220億円対比 19%)
6	大型投資先の状況	・ジョイント・コーポレーションの会社更生法申請による損失計上 102億円
7	投資有価証券	・実現損益、未実現評価損益ともにプラス(各々19億円、18億円)を計上

(*1) 「当期純利益」は、決算短信等の財務諸表で記載している「当社株主に帰属する四半期純利益」と同じ。本リリースにおいては、以下同様。

(*2) オリックス信託銀行の預金を除く。

金融危機に対する各国政府による前例のない大規模な財政支出の効果もあり、世界経済はやや回復の兆しが見え始めており、最悪期を脱しつつあります。国内においても在庫調整の一巡、政府の景気対策などからとりあえずの底打ち感が始まっていますが、不動産価格が下落していることやオフィスビルの空室率が上昇していることなどから、本格的に景気が回復軌道に乗るまでには相当の時間がかかると考えられます。

オリックスグループは、2010年3月期においても世界的な経済の減速と信用収縮に適合するため、財務の安定性と資産の健全性を確保しつつ収益の向上を図り、企業体質の強化と事業の再構築を行います。この経営方針に基づいたさまざまな施策の遂行により、2010年3月期通期の連結業績見通しについては、営業収益9,600億円(前期比10.8%減)、当期純利益300億円(前期比36.8%増)を予想し、緩やかな業績の回復を目指します。(2009年3月期決算短信に記載した業績予想と同じ内容です。)

主な経営指標の推移

四半期連結業績の推移

	2008.4-6	2008.7-9	2008.10-12	2009.1-3	2009.4-6
営業収益(売上高) (億円)	2,720	2,805	2,474	2,754	2,390
セグメント利益 (億円)	546	419	599	47	136
当期純利益 (億円)	324	229	419	86	76
ROE(株主資本当期純利益率、年換算)	10.3%	7.3%	14.0%	3.0%	2.6%
ROA(総資本当期純利益率、年換算)	1.44%	1.02%	1.92%	0.41%	0.37%
1株当たり当期純利益(基本的) (円)	362.96	258.20	472.72	96.75	85.36
1株当たり当期純利益(希薄化後)(円)	356.09	254.62	472.72	81.18	72.02

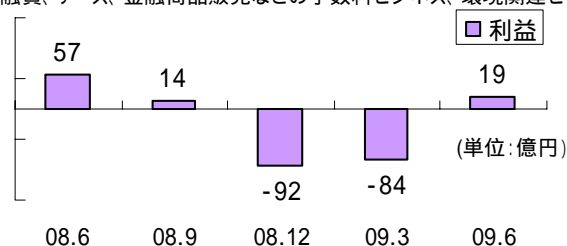
	2009.3	2009.6	増減率(%)
株主資本 (億円)	11,675	11,754	+1%
総資産 (億円)	83,697	81,394	3%
株主資本比率	13.9%	14.4%	-
1株当たり株主資本 (円)	13,059.59	13,147.74	+1%

各セグメント利益(税引前当期純利益)の推移

前第4四半期と比較すると、黒字を確保したセグメントが3事業部門から5事業部門に増加するなど業績は回復基調です。赤字を計上した「法人金融サービス事業部門」「リテール事業部門」がそれぞれ黒字に転じ、「投資銀行事業部門」も、ジョイント・コーポレーションの会社更生法申請による損失の計上はあったものの、赤字幅は大きく減少しております。(詳細については、2010年3月期 第1四半期決算短信 P2～P4およびP11をご覧ください。)

【法人金融サービス事業部門】

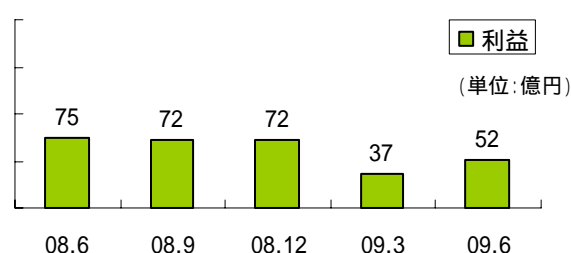
融資、リース、金融商品販売などの手数料ビジネス、環境関連ビジネス



- ・ 案件選別と回収強化による資産残高減少の結果、収益は減少しています。
- ・ 貸倒引当金繰入額が前第2・3・4四半期に比べ減少したことなどにより、セグメント利益は3四半期振りに黒字に転じました。

【メンテナンスリース事業部門】

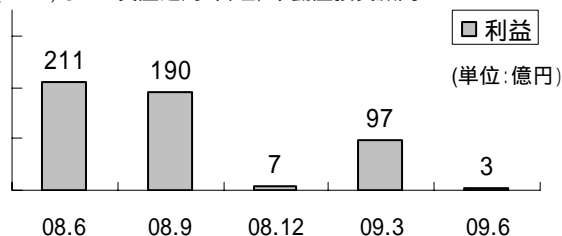
自動車リース、レンタカー、カーシェアリング、測定機器・情報関連機器等のレンタルおよびリース



- ・ 測定機器等のレンタル事業における需要の減少や中古車市場の低迷に伴う売却益の減少などにより、収益は減少しています。
- ・ 貸倒引当金繰入額の減少や販管費のコストコントロールにより、前第4四半期からはセグメント利益は増加しており、每期安定して利益を計上し続けています。

【不動産事業部門】

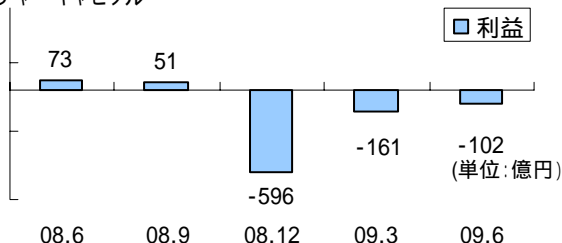
オフィスビル・商業施設等の開発・賃貸、マンション分譲、ホテル・ゴルフ場・研修所等の運営、高齢者向け住宅の開発・運営、不動産投資法人(REIT)などの資産運用・管理、不動産投資顧問



- ・不動産市場の停滞により賃貸不動産売却益や、マンションの引渡し戸数が減少しています。
- ・前第4四半期に比べ減益となりましたが、每期黒字を計上しています。

【投資銀行事業部門】

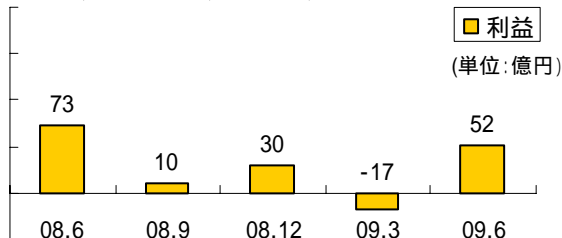
不動産ファイナンス、商業用不動産担保ローンの証券化、サービサー(債権回収)、プリンシパル・インベストメント、M&Aアドバイザー、ベンチャーキャピタル



- ・ノンリコースローンは新規取引停止と回収強化により収益は減少しています。
- ・ジョイント・コーポレーションの会社更生法申請による損失の計上はあったものの、前第3四半期および前第4四半期と比較すると赤字幅は縮小しました。

【リテール事業部門】

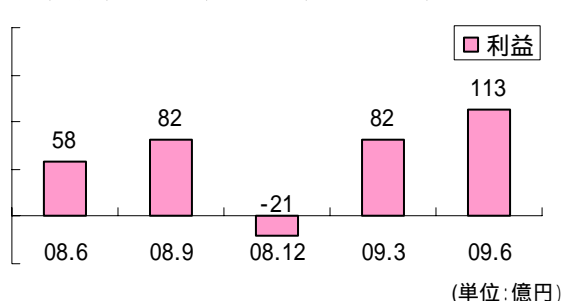
信託銀行、カードローン、生命保険、証券



- ・生命保険事業の運用損益は、前第4四半期から大きく改善しました。信託銀行業は事業拡大に伴い収益、費用とも増加しました。カードローン事業は貸倒引当金繰入額の増加により、利益が減少しました。
- ・セグメント利益は、損失を計上した前第4四半期から大きく回復し、黒字となりました。

【海外事業部門】

リース、融資、債券投資、投資銀行、不動産関連、船舶・航空機関連



- ・金融資本市場に回復の兆しが見られる中、米州における有価証券実現益や、アジアにおける投資先のIPOなどにより、増益となりました。
- ・前年同期および前第4四半期との比較において共に大幅な増益となり、また2四半期連続して黒字を計上しています。

詳細は、当社ホームページにて掲載の決算短信および決算補足資料をご覧ください。

URL: http://www.orix.co.jp/grp/ir_j/data/

以上

< 本件に関するお問い合わせ先 >
 社長室広報担当 横井 / 経営計画室 矢崎
 TEL : 03-5419-5102